

ひろさき運輸区分会情報

発行責任者 櫻田 真人
編集責任者 教宣部

東日本旅客鉄道労働組合 東北三地本
East Japan Railway Workers' Union
AKITA MORIOKA SENDAI JR Bus-TOHOKU

第24号
2019年1月9日

12・13南京～平和のための国際交流～

②南京大虐殺事件記念館見学



記念館は虐殺の行われた場所に建てられています。この場所は南京事件当時は野菜畑でしたが、日本軍による大量虐殺が行われ、虐殺された人々の遺体が埋められていました。記念館では掘り起こされた多くの遺骨がそのまま展示されています。他にも多くの展示があります。虐殺の写真や証拠書類、遺体を証拠隠滅した証拠や写真、首切り連続組写真、百人切り競争を行っていた日本軍人の新聞報道、婦女子への強姦の証言や証拠、強姦後に証拠隠滅のために殺された遺体の写真、日本軍の蛮行を伝えるイギリスなど海外の当時の新聞報道、当時現地に駐留していた外国人の日記や記録など、多くの展示物があり、いかに南京大虐殺が悲惨なものであったかを学ぶ事ができました。

③南京大虐殺生存者との意見交換

南京大虐殺の生存者である石さん（当時11歳、現在93歳、下写真中央）から当時の悲惨な状況をお聞きすることが出来ました。



職場集会で取り組んだ檄紙を石さんに！

「父と兄は日本軍に連れ去られ帰ってこなかった。日本軍により街は火の海。傷だらけ・血だらけ・首のない死体がたくさん転がっていた。日本軍に強姦される・殺されると女性はみな恐怖を感じていた。日本軍の侵略のせいで家族はバラバラになり、その後の生活もとても厳しくなった。」

「大虐殺は過去のことだ。しかしその事実を否定することはできない。過去をしっかりと認識して次代につなげてほしい。中日友好のために前を向くことが必要だ。」



記念館の見学や生存者との交流で、日本軍による大虐殺や強姦事件などは事実だと強く感じました。そしてそのことから日本政府や日本国民は未だに目を逸らし続けていることも感じました。日本の学校の歴史の教科書には日本にとって都合の悪いことは詳しく記載されていません。事実を学び、過去を捉え返して、未来につなげる事でしか本当の平和な社会は築けないとこの取組で改めて実感しました。

多くのカンパ
ありがとうございました！
お土産は1月の職場集会で
お出ししますので
奮ってご参加ください！

